

# 高付加価値の果実を安定的に生産するためには？

キーワード DNA マーカー, 果樹育種, 組織培養

2

問題を  
ゼロに

13

実験室に  
具体的な対象を

15

種の豊かさも  
守ろう

## ■ 研究概要

園芸作物、特に果樹は幼若期間が長く、播種から開花・結実まで非常に長い時間がかかります。したがって、新たに交配して得た実生の花や果実の形質がわかるまでかかる時間も長くなります。そういった欠点を、DNA マーカーを利用した早期判別法や遺伝子導入による幼若期間の短縮といった手法を用いて改善していく研究を進めています。

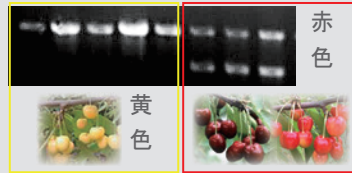


赤く着色するセイヨウナシ“スタークリームソン”果実（左）と遮光処理果実（右）。この着色の原因を探っています。

また、栽培技術や分子生物学的手法を用いて、園芸作物の開花期の判定や制御を行う技術の開発も目指しています。さらには果樹生産と異分野の融合を目指した試みも行っています。

オウトウ（さくらんぼ）の黄色果皮と赤色果皮を判別する DNA マーカーを開発しました。

→  
このバンドがあると赤い果実ができます



## ■ どのような共同研究・連携に結びつけられるか？

- ・ 果実の見た目を良くするには？
- ・ 挿し木等の栄養繁殖技術や組織培養を利用した種苗生産について
- ・ 果樹生産と異分野の融合に関すること

池田 和生 准教授 IKEDA, Kazuo

専門分野：園芸学（果樹）

E-mail : kikeda@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

